

Male
Chorus
Joint
Concert



第2回
**男声合唱
ジョイントコンサート**

2009 5/30(土)

愛知県芸術劇場コンサートホール

主 催：男声合唱ジョイントコンサート実行委員会
後 援：朝日新聞社 愛知県合唱連盟

ごあいさつ

本日は“第2回男声合唱ジョイントコンサート”に
ご来場賜り誠にありがとうございます。

3年前に第1回を開催いたしまして
その後このジョイントを続けることに意義があるとの
皆様の温かい御声援の下に第2回の開催の運びとなりました。
今宵も5団体による男声合唱の演奏会が開催できることは
誠に喜ばしい限りで御座います。

今回の合同演奏は、高須道夫先生の指揮で「智恵子抄巻末のうた六首」を
180名を越す大合唱で演奏いたします。

私たち
若い方たちにも男声合唱の良さを知り歌い継いでほしいと願っており、
今回地元の高校生や大学生の方々を特別招待しております。
最後まで楽しくお聞き願うことを望みながら
ご挨拶といたします。

2009年5月30日
実行委員長 酒井哲夫

第2回男声合唱ジョイントコンサートの開催にあたり心よりお祝い申し上げます。

3年前にこの名古屋地区を中心に活動をしている男声合唱団が集まり初のコンサートが盛大に行われましたが、それを引き継いで今回演奏会が開かれるることは大変意義深く嬉しく思っています。

男声合唱には、混声合唱や女声合唱とは異なる独特の良さがあります。その魅力を存分に發揮されることで、合唱を通した文化交流活動をさらに発展させてくださることを期待しています。また、今回の演奏会は若い人達に聴いていただくための試みもされるとの事。単独のリサイタルでは難しいことも、ジョイントだからこそ成しえることがあると思います。この催しを続けることで、合唱の輪がさらに大きく広がることを願っています。

最後になりましたが、ジョイントコンサートの楽しみの一つである合同演奏には、高須道夫先生をお迎えして清水條の名曲を演奏されるとの事。きっと、素晴らしい演奏が聴けることと思います。このコンサートの成功をお祈りしてご挨拶とさせていただきます。

愛知県合唱連盟理事長 長谷順二

～P r o g r a m～

I. 男声合唱団「昴」

無伴奏男声合唱のための「あしたうまれる」より

新実 徳英 作・編曲
谷川 雁 作詞

1. われもこう
2. あしたうまれる
3. 南海譜
4. 夜と昼
5. ちいさな法螺 ほら
6. 卒業

指揮：樅山英機

II. SINGERSなも

男声合唱組曲「朝の頌歌」
ほめうた

木下牧子 作曲
大岡信 作詩

1. 気ままな散歩
2. 美術館へ
3. 朝の頌歌

指揮：片桐真
ピアノ：渡部真理

—————(休憩15分)—————

III. クール・ジョワイエ

合唱曲集「木とともに 人とともに」より

三善晃 作曲
谷川俊太郎 作詩

1. 木とともに 人とともに
2. 生きる

指揮・ピアノ：高橋寛樹

IV. グランフォニック

男声合唱による「トスティ歌曲集」

1. 《セレナータ》La Serenata
2. 《悲しみ》Tristezza
3. 《さようなら》Addio!
4. 《最後の歌》L'ultima canzone

指揮：向川原慎一
ピアノ：早瀬洋子

V. 合同演奏

「智恵子抄卷末のうた六首」

清水脩 作曲
高村光太郎 作歌
指揮：高須道夫

5 団体合同演奏（東海メールクワイアの有志参加）

I 男声合唱団「昂」

無伴奏男声合唱のための「あしたうまれる」より

「白いうた青いうた」より
新実徳英作・編曲 谷川雁作詞

1947年生まれ名古屋出身の新実が、親子ほど歳の離れた前衛詩人・左翼活動家の経歴を持つ谷川と信州黒姫山で出会い、意気投合。協同で、曲が先に出来てこれにあとから詞をつける填詞（アテブリ）という手法で一連の合唱曲を作ることに取り組んだ。作曲家は、詞にこだわる必要なくスックと立った旋律を生み出そうとし、詩人は、次々と送られてくる曲に対し、その音の動きに合ったことばを選び出して、含意に富んだ詞をつける。二人はこの手法で「白いうた青いうた」と名づけて100曲を世に送り出すことを目指したが、5年間に53曲が出来たところで、1995年谷川の死によってこの稀有な創造活動は終りを告げた。その絶筆となった曲は「われもこう」であった。

この中から新実が8曲を選んで男性合唱用に編曲したものが組曲「あしたうまれる」であり、本日はこのうちの6曲を演奏します。美しい旋律と磨きぬかれたことばの組合せを味わって頂ければ幸いです。

1. われもこう

あの色だけならば 暗すぎる
すすきの道をふさぐ われもこう
風のままゆれ 霧のたびぬれ
さびついた とびらをつくる^{まい}
にわかに 秋の日
かがやく 深いくれない
遠くでうろこ雲 たずねてる
エジプトそだちの 紅を見たか

2. あしたうまれる

ねわらの麦に 月がさしこんで
あしたうまれる こうまに語る
おまえのひづめが 丈夫になつたら
アジアのはてまで ふたりでゆこう
柵のりこえて 魔物ゆらゆら
ふくろう夜まわり ほうほとないてる
枯れたはなびら においおぼえろ
しろいつめくさ まずてはじめに
おまえのたてがみ よじれる赤毛
異国でゆれたら わたしが照らす
たにしころころ うらやむばかり
十五夜先生 ふらりかくれる

3. 南海譜

南のすな まぶしい影
いくさ果てて さびる錨
よせる波を くだくしづけさ
^{うお}魚よ 魚よ おなじ骨ぞ
ともにうたえ 鮫のみやこで
あわれ 時の 椰子の高さ
潮がみちて 十日の月
舟底から のびる鎖
わかい祖の ^{おや}こえの泡だち
孫よ 孫よ おなじ年ぞ
ともにあそべ 渦のもなかで
あわれ 時の 珊瑚の赤さ

4. 夜と昼

星きえた夜 この部屋は島
そりたつ崖 ^{しおさい}汐騒のなか
渦のまわり およぐ鮫のえさ
ひれをつけた 愛のものがたり
だれがわらい だれが泣く
波れば笛 風鳴れば鈴
三日月のいろ おれのこころ

ほろにがい指 朝なめてみた
麦うれるとき 窓ひらく村
ゆがむ虹の かたち手をひろげ
踊りながら むすめ呼びにいく
だれがわらい だれが泣く
山見えて笛 空はれて鈴
つゆ草のいろ おれのこころ

5. ちいさな法螺

ちいっちゃん魚に ^{さかな} 化けたのさ
流れをおよいで 海にでた
すなやまは 波がどどん
やどかりこ 泣いていた
家主に 追い出され
こぶしあげ わめいておった
おれは彼女を 水にいれ
ひれをふるわせ 踊ったもんだ
ほーんとだぜ

ちいっちゃん魚の おれだけど
月夜にやうろこが 銀になる
みちしおの うかれ藻を
だてな鱗 ^{ふか} 咬んでいた
歯みがき わすれたと
長いつら しかめておった
おれは野郎を 寝かしつけ
あごを海月で こすったもんだ
ほーんとだぜ

紙ひこうき 芝生で とばしたら
折りたたむ かなしみが ひらいた
この 白さは いつまで のこるのか
天山北路の すなふる はなみずき
まどがらすに さよなら 書いたゆび

友おくると 靴ひも 直したら
いしみちに ゆうぐれが あふれた
なぜ けものの わかさは つらいのか
ボッティテエルリ うまれ日 しらべてた
水たたえる あの目を わすれない

JASRAC (出) 許諾第0906218-901号

Profile

指揮者 檜山英機



1965年 名古屋大学経済学部卒業
在学中名古屋大学男声合唱団指揮者をつとめる
1965年 名古屋労音コーラス入団
1976年 名古屋市民コーラスに改名
以降現在に至るまで団内指揮者をつとめる
現 在 市民の第九コンサート合唱指導
愛知合唱協会理事

男声合唱団「昂」

“合唱の原点はアカペラ”を旗印に仲間が集まり1999年1月結成し、満10年目を迎えました。メンバーの平均年齢は72歳ですが、いつも若い気持ちで、発声訓練に励み、親しみやすい日本や世界のアカペラ男声合唱曲の醍醐味を味わっています。練習日は月曜日の夕方で、月曜日が休日の日は練習を午後とし、夕方団員相互の親睦のため「飲んで歌っての会」を楽しんでいます。60歳台の若者の入団を歓迎します。

2002年四つの男声合唱団による「梅雨の晴れ間のコンサート」、2004年「青と昂のコンサート」。2006年2月初代指揮者山田正明氏が病で静養が必要になったため、氏の後輩である樅山英機氏に指揮者交代、2006年「男声合唱ジョイントコンサート」、そして今年が4回目の演奏会です。

メンバー

T 1、松尾純一、足立幸雄、磯野正敏、大池 廣、志田勝久、中村 宏、横井保夫、山田芳美
T 2、岩見雅夫、岩元淳一、江口允春、香取康夫、近藤節夫、酒井哲夫、畠 龍輔
B 1、藤野倫男、大原 功、片山正之、菅井昭三、戸田省二、野崎民夫、横井和雄
B 2、近藤 実、板倉昭男、大橋正佳、高木 桂、高田 刃、丹羽康人、伊藤健太郎(団友)

ホームページ <http://blog.goo.ne.jp/junmatsu8928>

連絡先：Tel. & Fax 0568-91-2225(高木)、定期練習：毎週月曜日18:30～20:30

練習会場：中部電力東桜会館（地下鉄新栄町、高岳両駅から徒歩5分）、会費：月2000円

II SINGERSなも



男声合唱組曲 「朝の頌歌」
ほめうた

木下牧子 作曲 大岡信 作詩

1. 気ままな散歩

2. 美術館へ

3. 朝の頌歌
ほめうた

この組曲は、東京都立大学グリークラブ（現・首都大学東京グリークラブ）の委嘱により作曲され、同クラブとOBにより2007年1月20日に初演されました。初演時のタイトルは「美術館へ」。本年3月に音楽之友社から出版されるにあたり、タイトルが『朝の頌歌』に改題されたほか、曲も一部改訂されました。

『この曲集では、大好きな大岡信作品から、若々しくスケールの大きい3篇をテキストに選びました。1曲目「気ままな散歩」はシュールな感覚の広がりとスピード感が楽しめる作品です。久しぶりに躍動、疾走するタイプの作品を書いたという気がします。2曲目の「美術館へ」は、美術館の厳かな静けさと、初めて芸術作品に対峙したときの高揚感とのコントラストを描いた作品でここでもイメージが大きく広がって飛翔していきます。最後の「朝の頌歌」は夜が明けていく情景を息長く大きく歌い上げる作品で、この曲だけで6分近くあります。暗い夜明けのピアニッシモのハミングから、陽が力強く昇って世界を光で満たすフォルテッシモまで、非常に息長いドラマチックな作品です。

今回は珍しく「間奏曲」的な作品が挟まらず、3曲とも骨太な作品になっています。なんとなくがんばって歌うのではなく、曲の構成をしっかり把握した上で音楽に流れを作り、段階的にテンションを引き上げていただけだと、音楽に立体感が出るはずです。』

木下牧子

【男声合唱組曲「朝の頌歌」（音楽之友社）より】

SINGERSなも

1989年、名古屋の片隅で合唱おたくの8名が歌い始めて20年。今年1月には創立20周年パーティーを開催。現在は20代の若者から70代の後期高齢者まで30余名が在籍する合唱団に成長しました。団名の「なも」は名古屋弁の“～なも”。力に頼らない、男性の、それも大人の男にしか出せない‘色気’を表現することが、私たちの目指す「なもトーン」です。

1990年9月の第1回定期演奏会以来、多田武彦氏・清水脩氏や大中恩氏等の伝統的男声合唱曲や現代作曲家・木下牧子氏等の作品のほか、合唱に馴染みのない方々にも楽しんでいただけるステージをと、男ばかりの合唱ミュージカル、スタンダードジャズ、ビートルズ、井上陽水などを取り上げてきました。第9回定期演奏会からは、「オリジナル編曲シリーズ」と銘打って、美空ひばり、山口百恵、昭和のレコード大賞曲集、服部良一作品、筒美京平作品等を男声合唱用に編曲委嘱し、好評を得てまいりました。また、男声合唱のレパートリーを増やそうと木下牧子先生に新作を委嘱し、2006年に「私はカメレオン」、2008年には「光る刻（男声版）」を初演しました。

Profile

ピアノ／渡部真理



愛知県立芸術大学大学院修士課程（ピアノ専攻）修了。ピアノを横山千代子、久保みち、小津恒子、三宅洋一郎、ディーナ・ヨッフェの各氏に師事。伴奏法を三浦洋一、土肥みゆき氏に師事。

静岡県音楽コンクール、かやぶき音楽堂ピアノDuo連弾コンクールなど受賞歴多数。また、1999年朝日室内楽シリーズ出演。2001年名古屋市地域文化振興事業・文化小劇場芸術公演開催。

ピアノ協奏曲を国内外のオーケストラと共に演奏するほか、リサイタル、数多くの合唱団のピアニストとして演奏会やコンクールに出演。最近では、地域の音楽講座での演奏や独唱・各種室内楽の共演者として幅広く活躍している。

現在、愛知学泉短期大学・桜花学園大学・中京女子大学非常勤講師、名古屋音楽学校講師。

指揮者／片桐 真



SINGERSなも創設時からのメンバーのひとり。1996年第7回定期演奏会から常任指揮者となる。豊富な音楽体験を通して培われたセンスは団員を圧倒するものがある。特に、日本語詩の楽曲を「フレーズ」を大切にして構成するその手腕は各方面で絶賛されている。団員随一の歌唱力を以って「歌って聞かせる」その指導法は非常に理解しやすい。

南山大学メイルクワイヤーで学生指揮者として活躍。現在、コーラ・ドルチェ指揮者。東海中学校・高等学校英語科教諭。

メンバー

T1 池田 潔
上川 英俊
佐藤 明彦
佐野 晴男
橋本 慧
前田 博也
四ツ谷昌彦

T2 安藤 良雄
伊澤 忠男
北村 秀博
児嶋 宏之
佐々木鷹志
高垣 敏昌
吉富 孝一

B1 今村 隆仁
岩本 昭人
岡本 太郎
尾関 陽一
片桐 真
桑名満洲雄
是澤 宣治
中山 泰弘
林 高弘

B2 伊藤 鑑
太田 勝洋
加藤 守人
黒谷 正樹
澤野比呂志
徳田 宏
中野 亮
真野 傑人
山田 正広

[第19回定期演奏会のご案内]

- とき：2009年11月14日(土)18:00開演（予定）
- ところ：三井住友海上 しらかわホール（名古屋・伏見）
- 演奏曲目：
 - I Missa O Magnum Misterium (Tomas Luis de Victoria作曲／皆川達夫編曲)
 - II 朝の頌歌(大岡信作詩／木下牧子作曲)
 - III 日本の唱歌集(寺島陸也編曲)※編曲委嘱・初演
 - IV オリジナル編曲シリーズ名曲集(編曲／青木肇、倉地達也、阿部恒憲)
- 入場料：2,000円（全自由席）

[SINGERSなも関連CD・初演楽譜]

<CD>

- ①木下牧子男声合唱作品集「恋のない日」Giovanniレーベル 價格 2,000円
 収録曲：「恋のない日」「Enfance Finie」
- ②木下牧子男声合唱作品集Ⅱ 「虹」Giovanniレーベル 價格 2,500円
 収録曲：「方舟」「わたしはカメレオン」

<初演楽譜>

- ①無伴奏男声合唱のための「わたしはカメレオン」
 (木下牧子作曲／カワイ出版／1,260円)
 【2006年第16回定期演奏会委嘱初演】
- ②男声合唱組曲「光る刻」
 (木下牧子作曲／カワイ出版／1,785円)
 【2008年第18回定期演奏会委嘱初演】

[SINGERSなも 連絡先]

- 中山泰弘 TEL 0565-31-1526/FAX 0565-33-3850/e-mail y-n@mx.d.mesh.ne.jp
- HOME PAGE <http://www.geocities.jp/singersnamo/index.html>

III クール・ジョワイエ

合唱曲集「木とともに 人とともに」

三善 晃 作曲

谷川俊太郎 作詩

《谷川さんと、すべての「いのち」のために》

『木とともに 人とともに』は1999年11月の東京文化会館主催第1回合唱の祭典「上野の森コーラスパーク」のテーマ曲。谷川俊太郎さんに詩を書き下ろしていただいた。

人が集い、出会い、ともに生きようとするとき、言葉を超えた歌の渦が沸き起こる。巨きな宇宙と無数の日常。ともに歌うそのすべての象徴を、上野の森の緑に求めた。

ピアノの無窮連祷による混声合唱曲「生きる」は、99年の大晦日午後から2000年元旦にかけて作曲した。1900年代最後の日、逝った友人たちを想いながらピアノを弾き続けているうちに、その音の流れのなかに谷川さんのこの詩の詩句が聴こえてきた。

ここに謳われるこの世の風景を、彼岸の人々はもう見ることができず、その彼岸を私たちはまだ見ることができない。だが、死者と生者の間を隔てているものは鏡のようなもので、その両側には二つの世界が照応しているように、今は思われる。この世の悼みと祈り、あの夜の記憶と安らぎが、その鏡の両面に手を合わせるように映っているのではないかと。

「いのちのうた」をテーマとした、合唱団「松江」2000の最後のステージで初演された。

2000年2月 三善 晃

(カワイ出版 楽譜扉より転載)

尚、女声合唱版を男声で演奏するに当たって、作曲者の了承、及びアドバイスを頂きました。

木とともに 人とともに

木とともに私は歌う
大地から声を吸い上げ
言の葉を光にさらし
大空へ心なげうち
木とともにあなたとともに
私は歌う 緑なす森になるまで

声よ湧け 私のうちに
花々の声 水の声
そよ風の声 いのちの声

人とともに私は歌う
声あげぬ声をもとめて
つぶやきと叫びのはざま
せめぎあう笑いと涙
人とともにあなたとともに
私は歌う 歌声の星座めざして

声よ湧け あなたのうちに
思い出の声 明日の声
物語る声 初めての声

生きる

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木もれ陽がまぶしいということ
ふっと或るメロディを思い出すということ
くしゃみすること
あなたと手をつなぐこと

生きているということ
いま生きているということ
それはミニスカート
それはプラネタリウム
それはヨハン・シュトラウス
それはピカソ
それはアルプス
すべての美しいものに出会うということ
そして
かくされた悪を注意深くこばむこと

生きているということ
いま生きているということ
泣けるということ
笑えるということ
怒れるということ
自由ということ

生きているということ
いま生きているということ
いま遠くで犬が吠えるということ
いま地球が廻っているということ
いまどこかで産声があがるということ
いまどこかで兵士が傷つくということ
いまぶらんこがゆれているということ
いまいまが過ぎてゆくこと

生きているということ
いま生きているということ
鳥ははばたくということ
海はとどろくということ
かたつむりははうということ
人は愛するということ
あなたの手のぬくみ
いのちということ

Profile

指揮 ピアノ 高橋寛樹



愛知県立芸術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業、同大学院修了。藤井賀寿恵、上原興隆、宇都宮淑子、オスカー・ケーベル、ジェルメール・ムニエの各氏に師事。合唱の伴奏をはじめ、声楽、器楽などとも幅広く活動。名古屋短期大学、名古屋音楽大学、同朋高等学校非常勤講師。クール・ジョワイエ（常任指揮者）のほかシティーエコー知多、アンサンブル デ ソノリテを指導。

クール・ジョワイエ

1971年10月に10数名のメンバーで創立。以来、高須道夫を常任指揮者に迎え、一貫して「良い音楽」を求めてきた。選曲方針として、(1) ヨーロッパの音楽的中心地で時代を遡った作品、(2) ヨーロッパの音楽的中心地から地理的に離れた国の作品、(3) 日本の作品を掲げており、新作の委嘱にも取り組んでいる。委嘱作品として、三善晃「いのちのうた」「へんしんのうた」、戸島美喜夫「もどりうた」「いくさ三題」がある。現在、西村朗先生に新作を委嘱中である。また、地域の活動や他合唱団とも積極的に交流している。

2008年1月より桂冠指揮者に高須道夫氏、常任指揮者に高橋寛樹氏という新体制をスタートし、本年10月31日の演奏会、更に来年秋の創団40周年演奏会に向けて頑張っている。

1985年愛知県文化選奨文化賞受賞、1985年、1986年、1987年、1988年、1997年に全日本合唱コンクール全国大会一般の部金賞受賞。

メンバー

T1	T2	B1	B2
山口 力	萩野 忠義	柴田 富造	中野 淳司
川井 基義	津田 孝治	鈴木 紘仁	伊藤健太郎
福本 忠弘	安藤 徳	堀内 康夫	長谷川 稔
吉村 宏之	河合 伸和	坂井 明彦	武内 康展
山田 正樹	松本 茂生	高橋 敏明	横川 享市
中武 英樹	澤田 正浩	鈴木 章照	金森 裕志
山田 仁	藤田 敏夫	原 定夫	立花 俊夫
村瀬 大典	石野 光明	神田 邦彦	
稻垣 茂	小川 博	中井 栄	

演奏会2009のご案内

日 時：2009年10月31日(土) 17:00 開演(16:30 開場)

場 所：三井住友海上しらかわホール

入場料：全自由席2000円

- ◆ もどりうた -名古屋の民謡による- より
- ◆ 白いうた青いうた より
- ◆ 木とともに 人とともに より
- ◆ 委嘱新作 (男声三部合唱とピアノのための)

作 曲 戸島美喜夫
作編曲 新実徳英
作 曲 三善 晃
作 曲 西村 朗

指揮：高須道夫・高橋寛樹
ピアノ：高橋寛樹

問い合わせ (052) 452-4522 川井

連絡先：山口 力 070-5642-2844 ホームページ <http://www.geocities.jp/choearjoyeux/>

IV グランフォニック

男声合唱による「トスティ歌曲集」

作曲者フランチェスコ・パオロ・トスティは、1846年4月9日、商人の両親のもと、イタリアのオルトーナ・スル・マーレというところに生まれました。日本の歴史でいうなら幕末、弘化3年。米国軍艦2隻が浦賀水道に来航し通商を打診したものの、幕府は拒絶し、退去を通告しています。また、後に14代将軍家茂の妻となる和宮親子もこの年の生まれです。

初め故郷でヴァイオリンを学んでいたトスティは、11歳の時、王室と内務省の推薦を得てナポリのサン・ピエトロ・マイエラ王立音楽学校でヴァイオリン、作曲を学びます。1866年卒業、直ちに母校の助教授に迎えられるのですが、健康を損ね故郷で作曲に専念。また、ローマへ行き、声楽教師の傍ら作品を発表。これが認められてサヴォイ公女マルゲリータの声楽教師に招かれます。そして同じ頃のイギリスでの成功を機に、1880年にヴィクトリア女王のもとで英国王室付音楽教師としてロンドンへ住居を移します。

1888年、ロンドンでベルタ・ピアソンと結婚、1894年より王立音楽院の声楽教授をつとめる傍ら、カルーソー、メルバ、テトラツツィーニ等、当時のもっとも優れた音楽家達の指導者や伴奏者として社交界の音楽の夕べで活躍し、また音楽出版社リコルディの依頼によってプッチーニ、マスカーニ、レオンカヴァッロ等のロンドンでの活躍を陰で支えたということです。〈声のための50のソルフェージュ全2巻〉、〈声楽レッスン全3巻〉等の声楽教則本を出版したのもこの頃です。

1908年、長年の英國樂壇への貢献に対して、時の国王エドワード7世によって男爵に叙せられ、1913年には30余年に渡る英國滞在に終止符を打ちイタリアへ帰国。1916年12月2日、ローマにて70歳の生涯を終えました。我が国の暦では大正5年のことです。

トスティの歌曲は、近代イタリアが生んだ声楽芸術の精華と言えましょう。当時イタリアはオペラ全盛で、作曲といえばオペラを書くとされていたこの時代に、400にも及ぶイタリア語、英語、フランス語による美しい歌を残し、民謡ばかりで歌曲が育たなかった当時にあって、美しい旋律を芸術歌曲の水準にまで引き上げた彼の功績は計り知れないものです。トスティ自身声楽家として出発しただけに、声をいかに美しく出すかという点に特に注意を払いながら、美しい旋律を書いたのです。その流麗な旋律に対応する、柔軟で平明なハーモニー、抒情詩の感情をそのまま歌い出したような直截な表現は、現代にあってもなお、音楽愛好家、声楽を学ぶ者を魅了して止まないのです。

《セレナータ》 La Serenata

昔からイタリアの名歌手達によって紹介されてきたトスティ歌曲の逸品中の逸品。《イデアーレ》と並んで、トスティといえばこれと、我が国でも古くから人口に膾炙された代表作。「夕べ恋人の窓辺で静かに歌う」というドイツ流のひめやかな趣とは異なり、マーチのように恋の感情を高らかに歌い上げる。

《悲しみ》 Tristezza

情熱と悲哀に満ちた名曲。トスティ歌曲の特徴である短調から長調への移行によってこの情熱と悲哀が諦観に変わる。

《さようなら》 Addio !

この曲は元々英語の詩に作曲されたもので《Goodbye》が原題。今ではイタリア語の訳詞で歌われることが多いが、ガリ・クルチやテトラツツィーニといった往年の名歌手達は英語で歌い、そのレコード録音も残されている。

《最後の歌》 L'ultima canzone

歌の内容はいわゆる「甲斐無きセレナーデ」(ヨリを戻してくれ、もう一度こっちを向いておくれと元カノに嘆き訴える歌)。といっても、テンポの緩急が激しく明るいイタリアの太陽と情緒に満ちた旋律はあまり深刻になってはいけないのだろう。

Profile

●グランフォニック

1994年5月、名古屋市においてコンサートが行われました。主催は東海クローバクラブ（同志社グリークラブの東海地区のOB会）であり、そこに慶應義塾ワグネルソサイエティー男声合唱団、関西学院グリークラブ、早稲田大学グリークラブの東海地区在住のOBが加わり、グランフォニックの前身である「東西四大学OB合唱団東海」なるものが産声を上げました。その後、2000年10月に「グランフォニック」と改称、四大学以外のメンバーも加わり、現在は60名の団員で、週一回の定期練習と月一回の強化練習を行っています。

わが団は、「グランフォニック商事」というバーチャルカンパニーの形態で経営されています。経営理念は「歌を通じて生きる喜びを感じ、伝えること」であり、経営方針として、「より高度な水準の男声合唱を目指す」、「創作・編曲に限らずオリジナル作品を必ず発表する」、「ドイツ語（または他の外国語も含めて）の曲をキチンと歌う」を掲げています。

2006年11月の第7回定期演奏会では、初めての客演指揮者として畠中良輔先生をお迎えし、高田三郎の「水のいのち」を、2008年5月の第8回定期演奏会では同じく客演指揮者、小林研一郎先生による、清水脩の「月光とピエロ」、グスタフ・マラーの「さすらう若人のうた」を演奏いたしました。これからも、オリジナル性を基調としました「オンリーワン」合唱団を目指してまいります。



●向川原慎一（指揮）

早稲田大学第一政治経済学部卒業。長年にわたり合唱指揮・指導を行い、現在は男声合唱団グランフォニックをはじめとしていくつかの団体の指揮者を務める。そのかたわら、歌曲を中心とした作曲活動を続け、2007年の奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門（中田喜直賞の部）では2曲が本選に進み、優秀賞と入選を得た。また合唱編曲ではカワイ楽譜から「混声合唱のための5つのトスティーソング」と「ドボルジャークのジプシーの歌」が出版されている。小林研一郎氏に師事。



●早瀬洋子（ピアノ）

学生時代より伴奏者として活躍、名古屋二期会を始めとして名古屋オペラ協会や文化振興事業団など愛知・岐阜・三重の各種オペラ団体にて長年、オペラ・ミュージカルの練習ピアニスト、コレベティトゥア、副指揮者を務める。現在、名古屋芸術大学実技助手。グランフォニックの伴奏者として招かれて9年目となる。

★第9回定期演奏会のお知らせ

日時 2009年9月23日（祝日）
場所 愛知県芸術劇場コンサートホール
演奏曲目

- ◆「ミュージカル レ・ミゼラブル」
- ◆「トスティ歌曲集」
いずれも指揮：向川原慎一
- ◆「水のいのち」
指揮：小林研一郎<客演>
- 他

●メンバー

トップテノール

佐々木正義・三ツ松平・伊藤高潤・神谷立正・田中良夫・鹿住 誠・
藤田東一・小林 武・常川 浩・鈴木英孝・浅井裕之・黒岩 実

セカンドテノール

柴田道昭・飯田公男・佐藤 正・森重雅夫・三ツ口勝弥・石井 清
伊東健光・新谷岳史・中村嘉夫・井上恵太・黒田泰男・小林信夫・
間瀬 讓・大浦亮一・松浦治徳

バリトン

細江太喜雄（団長）・永井一美・神田久嗣・弘瀬嘉夫・長谷川利孝・
伊藤慎二・寺島正晃・安田俊哉・水野邦明・早澤信昭・芝木昌一・
天野 浩・柴田忠和

ベース

藤山祐司・外村俊夫・井ノ口貴敏・富田 敏夫・浅井良之・
浅野憲一郎・村井襄介・松原成憲・間瀬裕士・福澤慶太・犬塚弘道・
成井詔彦・小嶋 聰・鈴木秀樹

★団員募集中

第9回定演の「水のいのち」は
小林研一郎先生の指揮です。
一緒に歌いませんか!!

- ◆練習日 定期練習:毎週1回 木曜日
午後7時から
- 月例練習:毎月1回 土曜日
- *土曜日のみ会員も可
- ◆練習場所 金山音楽プラザ
- ◆团費 月3,000円

●ホームページ/www.granphonic.com/

●連絡先 間瀬 讓（幹事長） 080-6943-1814

V 合同演奏

「智恵子抄卷末のうた六首」

昭和16年秋、高村光太郎の詩集「智恵子抄」が出版された時、私は異常なほどの感動を覚えた。以来、この愛情の詩に曲をつけたいと思いつづけていた。昭和30年、東京交響楽団の委嘱をうけたのを機会に、その中の3篇を独唱と管絃楽に作曲し、続いて2、3年内に9篇に達した。そして、最後には20篇の歌曲集にしたいと思っている。昭和39年9月、東海メールクワイアから作品を依頼された時、私は「智恵子抄」卷末のうた6首によって責を果すことになり、ここにこの曲が生まれた。東海メールクワイアはこの曲を随意曲として、第17回全日本合唱コンクールに出場し、優勝した。

曲は題名にある通り、6首の短歌からなり、変奏曲形式にした。第1首をユニゾンの主題とし、第1首をもう一度くりかえしてこれを第1変奏、以下5首で、6つの変奏からなる。変奏曲の構成上、当然テンポや拍子が各曲ちがったものになっている。それぞれの曲想を相互に対照させることが肝要なのは言うまでもない。各変奏はアタックが続けること、これまた当然である。

清水 優

(カワイ楽譜(株)初版より転載)

智恵子抄卷末のうた六首

高村 光太郎

ひとむきにむしゃぶりつき為事する
われをさびしと思ふな智恵子

気持ちがひといふおどろしき言葉もて
人は智恵子をよばむとすなり

いちめんに松の花粉は浜をとび
智恵子尾長のともがらとなる

わが為事いのちかたむけて成るきはを
智恵子は知りき知りていたみき

この家に智恵子の息吹みちてのこり
ひとりめつぶる吾をいねしめず

光太郎智恵子はだぐひなき夢をきづきて
むかし此所に住みにき



高須道夫

1965年東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。竹本正俊、伊藤亘行両氏に師事。卒業後合唱指揮者として活動。1972年より名古屋芸術大学にて後進の指導にあたる。1973年ショスタコービッチ作曲「森の歌」(山田一雄指揮)の合唱指揮で本格的にデビュー。その手腕を高く評価され、以降合唱付の大きな演奏会やオペラの合唱指導を担う。

これまでに、〈1985年、1988年、1995年に公演されたマーラー作曲交響曲第8番「千人の交響曲」〉、〈1992年愛知県芸術劇場開館記念事業プリテン作曲オペラ「ピーターグライムズ」〉、〈1994年名古屋フィルハーモニー交響楽団定期演奏会No.196ブルームス作曲「ドイツレクイエム」〉、〈2005年愛知県の委嘱作品新実徳英作曲「白鳥」(オペラ)〉などがある。

また、数々の合唱団の常任指揮者として、定期的な演奏会に加え様々なコンクールに参加し、優秀な成績をおさめる。特に日本語を大切にした緻密な音楽創りには定評がある。
その他、池辺晋一郎作曲合唱オペラ「ごんぎつね」をはじめとするオペラや音楽劇の指揮者としても実績がある。

1982年名古屋市芸術奨励賞受賞。

1983年～1998年名古屋市文化振興事業団の評議員。

1994年～2005年愛知県文化振興事業団AC合唱団の指導者。

1998年～2003年愛知県合唱連盟理事長。

現在、名古屋芸術大学名誉教授、「クール・ジョワイエ」桂冠指揮者、「SKOLION」常任指揮者、「合唱団みどり」指揮者、愛知県合唱連盟顧問、日本発声指導協会会員。

選曲にあたって

「智恵子抄巻末のうた六首」は、懐しい曲です。

私が合唱指揮を始めて3年目の7月、三菱電機名菱会男声合唱団を振って第10回全国産業人合唱コンテスト全国大会で歌った曲です。当時合唱界では、第一人者であった清水脩氏に聞いてもらい言葉をかけてもらうという榮誉をよく覚えています。清水氏の作品の中でも良い作品であるという想いと今回ここに結集した各団の力を斟酌してこの曲を選びました。

この曲の良さは、高村光太郎の歌にあります。智恵子を想う光太郎の気持ちを清水氏がどのように音楽にするかに興味があるところです。清水氏は1つの主題と6つの変奏曲という型でまとめ上げました。当時としては斬新な書法であったと想像されます。変奏曲の中には、コラールやフーガの要素を折り混ぜてすばらしい作品に仕上りました。その反面多くの技術的な課題が要求されています。この課題に取り組むのが私と合唱団の役割です。

高須道夫

邦人作曲家への委嘱活動

東海メールクワイアは、1960年に清水脩作曲「白い火の姿」で、全日本合唱コンクールで初優勝したが、その後優勝から遠ざかり1964年再び清水先生に委嘱をお願いして、「智恵子抄巻末のうた六首」で、優勝を果たす。

この事は現在では一般的に行われているアマチュア合唱団の邦人作曲家への委嘱活動のさきがけとなった。



清水 勝

明治44年(1911年)11月4日～昭和61年(1986年)10月29日。大阪府大阪市天王寺区出身。

大阪外国語学校(現・大阪大学外国語学部)を卒業後、東京音楽学校(現・東京藝術大学)選科に入学、橋本國彦らに師事。

第二次世界大戦後の、日本の作曲界の隆盛に尽力し、顕著な業績を残した。

残したオペラ、オペレッタは15作、合唱曲は400曲以上に及ぶ。

合唱の分野では、作曲や出版、合唱指揮のみならず、厚生音楽運動の推進および全日本合唱連盟の設立に関わっている。

〈有志参加〉 東海メールクワイア

1946年6月名古屋市昭和区の東海教会を拠点として設立。爾来、一般社会人の男声合唱団として活発な活動を行っている。今日、団員も80名を超え、63年の歴史と伝統を誇る、ゆるぎない地歩を築き上げるに至った。定期演奏会は1952年に第1回を開催以来、2008年6月で51回を数えた。また、男声合唱活動の振興にも力を注いでおり、1971年、他の有力合唱団と語らって日本男声合唱協会（JAMCA）を設立。現在、その事務局を引き受けるなど会の活動に積極的な役割を果している。

全日本合唱コンクール一般の部にて全国優勝4回、芸術祭奨励賞受賞2回。1959年から始めた邦人作品委嘱は現在36作品を数え、本日合同で演奏される「智恵子抄巻末のうた六首」もその中の一曲である。海外演奏旅行は、エストニア、フィンランド、ラトヴィア、スウェーデンおよびノルウェーへ出かけ、来年はイタリア演奏旅行が企画されている。

1989年から常任指揮者制を廃し、以後、その年毎の企画に従ってその指揮者をお願いする、という独特的のスタイルを取るようになり、その過程で故高田三郎先生との出会いがあった。先生から厳しくも愛情あふれるご指導を受け我々は大いに感化され、合唱に対する姿勢にも変化が現れるようになった。現在、須賀敬一、今井邦男、松原千振、飯沼京子、アンツ・ソーツ（エストニア）各先生のご指導の下、邦人作品委嘱、北欧合唱曲、そして高田三郎作品を中心に展開している。また、ユースクワイアの育成にも力を注いでいる。

高田三郎作品の「典礼聖歌」「心の四季」などの男声用楽譜を10冊出版しており、全国の男声合唱団から大好評を博している。また5組のCDも出版している。

メンバー（有志参加）

- T1 村瀬輝恭、永岡 衛、松薗 齊、深谷幸弘、藤田治樹、北井一夫、杉江正裕、木村博哉
T2 中嶋 晃、奥村祐一、高木秀一、森 健次、森川勝之助、金森 讓、河村博彦、
永井雄治、小保内亨、井部 修、荒木 旬（ユース）、原田康太（ユース）
B1 林友三郎、村瀬鉢実、沢田英一、間瀬泰得、水貝英明、山田 潤、佐野輝男、川瀬治通、
奥村 徹、吉川悟一郎、棄田正識（ユース）
B2 鈴木 順、清水一郎、行松敏明、加納高志、塩田 保、曾我雄司、野田燿嗣、都築孝治、
牧 伸夫、高見是久、杉浦秀継（ユース）

第52回定期演奏会のお知らせ

「芸術祭賞&邦人作品集」

2009年7月12日（日）13：30開演

愛知県芸術劇場コンサートホール

歌曲集「日本の笛」（北原白秋：詩 平井康三郎：作曲）

男声合唱組曲「光る砂漠」（矢澤 宰：詩 萩原英彦：作曲 福永陽一郎：編曲）

男声合唱とピアノによる蒸気機関車への讃歌「走れ わが心」（伊藤海彦：作詩 大中 恩：作曲）

男声合唱とピアノのための「くちびるに歌を」（信長貴富：作曲）

指 揮／飯沼京子、伊東恵司

ピアノ／山下 勝、平林知子、山元里亜

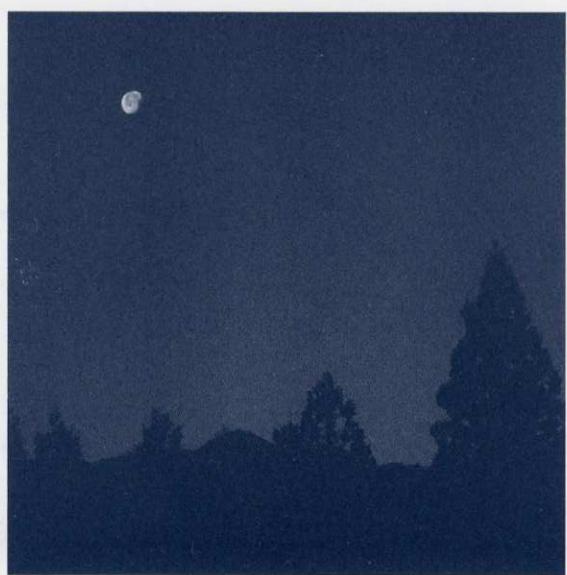
お問い合わせ先：川瀬治通 FAX 0568-35-0802

E-mail kawase@ma.ccnw.ne.jp

ホームページ <http://choir.jpn.ph/tmc/>

第2回男声合唱ジョイントコンサート実行委員会委員

酒井哲夫（委員長）・大池 廣	(男声合唱団「鼎」)
伊澤忠男・中山泰弘・高垣敏昌	(SINGERS なも)
萩野忠義・福本忠弘	(クール・ジョワイエ)
細江太喜雄・鹿住 誠	(グランフォニック)
川瀬治通・村瀬輝恭	(東海メールクワイア-)



Male
Chorus
Joint
Concert



2009 5/30 (土)

16:00 開演 (15:15 開場)

愛知県芸術劇場コンサートホール

入場料 2,000円 (全自由席)

男声合唱団「昂」 「あしたうまれる」 新実徳英 作・編曲／谷川 雁 作詞
指揮 横山英機

SINGERS なも 男声合唱組曲「美術館へ」 木下牧子 作曲／大岡 信 作詩
指揮 片桐 真 ピアノ 渡部真理

クール・ジョワイエ 「木とともに 人とともに」より 三善 晃 作曲／谷川俊太郎 作詩
"木とともに 人とともに" "生きる"
指揮 高橋寛樹

グランフォニック 「男声合唱によるトスティ歌曲集」
指揮 向川原慎一 ピアノ 早瀬洋子

～合同演奏～ 「智恵子抄卷末のうた六首」 清水 優 作曲／高村光太郎 作歌
指揮 高須道夫
合同演奏(東海メールクワイアの有志参加)

第2回 男声合唱 ジョイントコンサート

主 催：男声合唱ジョイントコンサート実行委員会

後 援：朝日新聞社 愛知県合唱連盟

お問い合わせ：実行委員（酒井） ☎(052) 804-2070